

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-1-4 治安対策の推進
---------	--------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	警務課長 村上 紀明	電話番号	0852-26-0110(代)
----------	------------	------	-----------------

事務事業の名称	治安基盤強化事業
目的	(1) 対象 県民 (2) 意図 警察の組織の人的、物的及び制度的基盤を整備し、精強な第一線警察を構築することにより、県民の安全で安心な生活を確保する。
事業概要	治安対策を推進するためには、警察組織の人的、物的及び制度的基盤整備を図る必要があることから、優秀な人材を確保し、教養の充実を図るとともに、装備資機材の整備や業務の見直し・効率化を徹底し、治安基盤の強化を推進する。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 犯罪率(暦年)	目標値		4.6	4.3	4.1	3.9	件/千人
		取組目標値						
	式・定義 県人口千人当たりの刑法犯認知件数	実績値	4.8					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	1,094,309	1,094,765
うち一般財源(千円)	1,049,579	1,050,035

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 平成27年中の刑法犯認知件数は3,342件(前年比-1,430件)。犯罪率は(全国8位(良い順))
- 平成28年5月末の認知件数は1,146件(前年同月比-220件)。
- 優秀な人材確保～平成28年の警察官採用試験(大学卒：来春採用)の応募者は325人(前年比+37人)
- 現場執行力の強化～平成28年6月末における各種事件事故を想定した現場対応訓練の回数は94回(前年同月比-31回)
- 装備資機材の整備～地域警察官の耐刃防護衣等を整備計画に基づき順次更新を行い、予定の整備を完了
- 組織体制及び警察施設の整備～平成28年3月に「サイバー対策室」に「サイバーセキュリティ対策係」を新設したほか、3駐在所を統廃合
- 業務の合理化・効率化～業務の見直しを行うなど業務の合理化・効率化を推進中

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 優秀な人材確保～月間を設けるなどして組織を挙げた募集活動を展開し、昨年比37人増の応募を得た。
- 現場執行力の強化～各種事件事故を想定した現場対応訓練の反復実施により、現場執行力の強化を図った。
- 装備資機材の整備～耐刃防護衣等の計画的整備により、警察官の職務執行における安全性の向上を図った。
- 組織体制及び警察施設の整備～「サイバーセキュリティ対策係」の新設により、サイバー空間の脅威への対処等サイバーセキュリティ対策の強化を図った。
また、浜田警察署の移転改築、交番・駐在所の適正配置により、初動警察活動の強化等を図った。
- 業務の合理化・効率化～業務の見直しを行い、合理化・効率化を推進して第一線警察職員業務負担の軽減を図った。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 刑法犯認知件数は減少傾向を示しているが、治安情勢は予断を許さない状況にある。
- 人的基盤の整備に関し、警察官志望者が減少して採用試験の競争倍率の低水準化が継続しているほか、合格者の採用辞退等、優秀な人材確保が困難となっている。また、若手警察官の増加により、現場執行力の低下が懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」

- 治安情勢が予断を許さない原因として、人身安全関連事案や特殊詐欺被害の続発、更には情報通信技術が進展する中でのサイバー空間の脅威の深刻化や犯罪のグローバル化の進展等が挙げられる。
- 警察官志望者が減少している原因として、少子高齢化に伴う就職適齢人口の減少、民間企業の採用活発化等が挙げられる。若手警察官の増加原因は、大量退職・大量採用の継続である。

③原因を解消するための「課題」

- 治安情勢への対応に関しては、今後も警察力の充実強化に向けた人的、物的及び制度的基盤の整備を推進していく必要がある。
- 人的基盤の整備に関しては、警察官の魅力・やりがい等に関する効果的な情報発信等を行い、優秀な人材を確保していく必要がある。また、増加する若手警察官に対しては、各種事件事故を想定した現場対応訓練を継続実施し、現場執行力を強化していく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 優秀な人材の確保～就職説明会参加者等に対するメールマガジンの発信、リクルーター制度の効果的活用、警察学校等におけるオープンキャンパスの充実など、組織を挙げた募集活動を継続し、更なる応募者の獲得に努めるほか、合格者に対する継続的な連絡等により、採用辞退防止を図る。
- 現場執行力の強化～各種事件事故を想定したロールプレイング形式による現場対応訓練を継続実施し、第一線警察官の現場執行力の強化を図る。
- 装備資機材の整備～多様化する現場に有効な装備資機材の新規整備を推進する。
- 組織体制及び警察施設の整備～変化する治安情勢に対応するため、組織体制について不断の見直しを図る。交番・駐在所の適正配置及び施設の長寿命化を図るとともに、警察施設としての機能を果たすための施設整備を推進する。
- 業務の合理化・効率化～各種情報システムの整備等を通じた業務の合理化・効率化を推進する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)